

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 5 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 36名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 1ユニット
記入者(管理者) 氏名	福永 智子
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテのAP欄に、SO欄の事実に対して、思ったこと、考えたことを記入し、ケアプランにつなげていく事に取り組んできたが、十分にできていない。アセスメントシートには、変化を赤ペンでの記入はできている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は開設して21年目を迎え、現在の場所に移転した建物は明るく、清潔感がある。建物内部はバリアフリー構造で、利用者や来訪者はユニット間の自由な出入りもできるとともに、随所に季節の小花が活けられ、開放的で心和む空間となっている。コロナ禍以前には、併設のデイサービスの利用者との交流も行われていた。現在のコロナ禍においても、事業所には面会や外出などの制限が設けられているものの、人混みを避けて、時期をずらしながらドライブがてらに花見や初詣に出かけたり、事業所内で夏祭りを開催する工夫をしたりするなど、利用者が気分転換をしながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。また、法人内において、年間計画を立てて毎月実施する社内研修も充実しており、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持に向けたケアを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、毎月認知症カフェを開催し、地域への啓発活動や情報発信をなど積極的に進めたりするなど、地域の総合相談窓口としても信頼されている。</p>
---------------------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気にかけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。居室の変更や利用者さんの状態に合わせて、ベッドや布団に変更する等、安全に生活できる環境づくりをしている。	○	/	○	アセスメントシートを活用して、利用者の昔の生活や今の生活、今できることなどを、担当職員等が利用者や家族から聞き取り、整理して記録に残している。また、日々のかかわりの中で、職員は利用者や家族、友人などから、新たな情報を得ることもあり、赤字で追記して職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時や電話にて、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしなどを聞き取るほか、これまでかかわってきた介護支援専門員や病院の相談員などの関係者から、情報を収集することもある。また、聞き取った内容や得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートに整理するとともに、新たに得られた情報は赤字で追記して、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。主治医からの報告書もカルテに挟み、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送りに伝えている。	/	/	○	事業所では、担当職員がアセスメントシートを作成している。日々のかかわりの中で、職員が利用者や家族から新たに得た情報を追記し、朝夕の申し送り等を活用して情報共有するとともに、利用者本人の視点に立ち、より良いサービス提供ができるよう検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。夕方も夜勤者に申し送りしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気付きや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族の意向のほか、職員が得た情報、主治医からの診療報告書や計画書をもとに職員間で話し合うなど、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。また、担当者会議の中で参加者から意見をもらい、作成した介護計画は家族に説明し、了承を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	◎ 個別ファイルの介護記録用紙の並びに、アセスメントシートと介護計画を両面コピーをして綴じており、職員は介護計画を確認しながらサービスの実施記録等が記載できるよう工夫されている。また、申し送り時等に、利用者の状況を職員間で共有しながら、日々の支援につなげている。利用者の日々の暮らしの様子は、発した言葉や行動、エピソードなどを詳しく記録することができている。さらに、職員の気づきやアイデアは、申し送りノートやアセスメントシートへ追記することができている。個別の介護記録のAP欄をさらに有効活用できるよう、今後も継続した取組みを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP欄も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	アセスメントシートやフェイスシートに記入したり、カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	○ 介護計画は6か月に1回を基本として、見直しをしている。入居直後や退院後などには、利用者の様子を観察等しながら、3か月に1回見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月モニタリングを行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状況に変化が見られた場合には、必要に応じて担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	◎ 事業所では月1回職員会議を、全ての職員の参加を原則のもとで開催している。会議の中では、計画的な研修や勉強会を実施している。毎朝の申し送りは、1階と2階に分かれて各ユニット合同で実施するとともに、サービス担当者会議を開催するなど、利用者の情報共有に努めている。また、緊急案件がある場合には、その都度職員間で話し合う機会を設けている。さらに、会議に参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、ほか、管理者が直接説明している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作りや心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとの申し送り時等を利用して行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してサインしてもらっている。大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。又、申し送りノートを確認してもらっている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。申し送りノートも活用している。	/	/	/	◎ 申し送り等を活用して、情報伝達をしている。また、申し送りノートや議事録を回覧し、確認後に職員はサインをしているほか、重要事項は管理者が直接説明し、確実な情報伝達につなげている。さらに、病院受診の情報はケアプランファイルに綴じて回覧するほか、医師の指示は介護記録のAP欄に赤字で囲み、分かりやすくなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。申し送りノートを作り、少しの変化も記入し把握できるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。				飲み物や衣服など、職員はその日の気分により、利用者自身が選べるよう声をかけている。職員は生活のあらゆる場面で利用者の意向を考えたかかわりを大切にしており、家族のことを話題に出したり、親しみのある呼びかけをしたりするなど、利用者一人ひとりに合わせたかかわりを通して、生き活きた言動や表情を引き出すことができている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行つてその日に着たい服を選んでもらっている。			○		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。入浴の時間などは、利用者さんの希望を確認している。					
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。					○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。		◎	○	◎	利用者の人権や尊厳について、職員は社内研修等で学ぶ機会がある。職員はプライバシーを大切にしたい声かけや態度を常に意識し、基本的に丁寧な言葉づかいで、利用者との目線を合わせて話しかけることを心がけており、訪問調査日には穏やかに利用者さんに声をかける職員の様子を確認することができた。また、法人・事業所として、「喋れなくても耳は聞こえる」ということを意識しており、職員は介護の誘導時などもさりげない声かけで、利用者が安心できるよう対応している。さらに、居室への出入りの際には、職員は必ずノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、利用者さんに声をかけてから出入りすることができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。				◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事無ないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っはならないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。				○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けを求めたり教えをもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。					職員は、利用者同士の関係性を把握できており、仲の良さを考慮した配席にしている。時には、気分転換で席替えを行い、利用者一人ひとりの様子を見ながら、快適に過ごせるよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士、コミュニケーションが図れる機会を多く持てるように努めている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。				○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。居室でゆっくり話を聞く時間を作っている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所にドライブなどで出かける事はあるが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。コロナ感染症予防の為面会制限もあるので電話で話せる機会を作っている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮している。コロナウイルス感染症予防の為、面会自粛中は、ホールの窓から会ってもらっている。又、電話でも話してもらっている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、花を見たりしている。畑を見に行ったり、花の水やりなども行っており、野菜の収穫も行っている。コロナ禍の中で外出が十分にできていない。(店など)	○	◎	◎	現在のコロナ禍において、以前のようなデイサービスの利用者や各フロア間の利用者同士の交流は避けているものの、同フロアのユニット間は自由に入出し、交流することができている。事業所では人混みを避けて、時期をずらしてドライブがてらに花見や初詣に出かけるなど、感染症対策をしながら、利用者が気分転換できるよう努めている。また、日常的に1階フロアの利用者は庭にある畑に出かけたり、2階フロアの利用者はベランダでスイカを栽培したりするなど、外気に触れることもできる活動を支援している。さらに、重度の利用者も同様に、外の空気を吸えるよう支援している。外出できる機会は減っているものの、事業所内で夏祭りを開催する工夫をするなど、利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。畑で野菜の収穫を見て楽しんでもらっている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。				職員は、利用者一人ひとりの能力をしっかりと把握できており、アセスメントシートに、「今できること」を書き込むことができている。利用者一人ひとりに洗濯物たたみや台拭き、おやつや果物の皮むきなど、できることに取り組んでもらい、職員はできるだけ手や口を出さずに見守りや待つ介護をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りを行っている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらおうようにしている。		◎	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。				事業所では、フェイスシートやアセスメントシートに、できることを記録するなど、利用者一人ひとりの理解に努めている。洗濯物たたみや台拭きなどの家事を役割にするほか、他の利用者が食が進まない利用者へ声かけをしたり、目が見えない利用者に声をかけながら介助をしたりするなど、利用者同士で助け合いながら、寄り添える良好なコミュニティができています。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといってもらったりしている。	/	/	/	食事の際に、食べこぼしがある利用者には、職員は食事前のエプロンの代わりに食事専用のタオルを胸元に当てて、さりげなく口元を拭くなどの支援をしている。また、重度の利用者も本人の好きな色の服を選び、好みの髪型に整えることができています。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。衣替え等もスタッフと一緒にやっている。夏祭りには馴染みの基平や法被を着て頂いている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。	/	/	/	法人の栄養士が献立を作成し、フロア毎の厨房で調理専属の職員が調理している。食材は業者に発注しているものの、コロナ禍以前は、おやつなどの食材を利用者と一緒に買い物に行くことができていた。調理の下ごしらえや後片づけなど、できることを利用者と一緒に行っている。献立づくりの際に、利用者の好みやアレルギー、リクエストなどを考慮し、菜園で採れた旬の野菜を使用するなど、季節が感じられる物を取り入れている。メニューは全体的に減塩で、利用者一人ひとりの食事形態に合わせて、切り方や柔らかさなどにも配慮している。食器類は、事業所で軽く使いやすい物を用意しているが、自分の物を使用している利用者もいる。また、職員は利用者と一緒に関わり、サポートをしながら食事を摂ることができている。リビングには一日のメニューが掲示されているとともに、重度の利用者を含め、ガラス越しの厨房の様子や漂う匂いで、食事の楽しさを感じさせている。さらに、食事の栄養バランスは栄養士に任せているが、職員はしっかり水分が摂れるような汁物や1日2回の果物の摂取希望などを伝えることができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗ひ物は、出来る利用者さんが時々してくれている。月に1回おやつ作りをしている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手なもの、アレルギーにも配慮してくれている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、滑りにくい物を使っている人もいる。主食を見えやすくする為、色のついたお碗を使用して自分で食べられるようにしている。使いやすいスプーンやフォークを使っている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんと職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれている。	/	/	◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。				職員は社内研修で学び、口腔ケアの重要性を理解している。月2回訪問歯科の来訪があり、口腔内のアセスメントや口腔ケアの指導を受けるなど、職員は利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握することができている。毎食後、職員が口腔ケアの声かけを行い、自分で歯磨き等ができる利用者には見守りながら口腔内の状況を確認するなど、日常的に口腔内の清潔保持を支援している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてくれている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				事業所では、座位がとれない利用者以外は、トイレでの排泄を基本として支援をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、利用者の状態に合わせて、職員間で適切な排泄用品を検討し、家族に確認のうえ使用している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人さんの希望時間を確認してから入浴してもらっている。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらうようにしている。			◎	○	事業所として、入浴できる曜日や時間帯は特に決めておらず、利用者の希望を確認しながら入浴支援をしている。利用者は、夏場には週3回、冬場は週2~3回を基本として、入浴することができる。利用者の要望に応じて、毎日の入浴希望にも対応することができている。また、湯の温度や湯船に浸かる時間などは、利用者の体調を見ながら個別に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたりスタッフを交代して、気持ち良く入ってもらうように工夫している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所では、利用者の安全性を考慮して、基本的に睡眠導入剤や安定剤などの服薬には頼らない方針としている。入居前に内服していた利用者も、入居した時点で服薬を中止してもらっている。日中の活動を増やしたり、紫外線を浴びたりするなど、利用者の生活リズムを整える工夫をしながら、夜間に安眠できるよう努めている。また、どうしても眠れない利用者や、夜間覚醒している利用者には、リビングに出て職員と一緒に過ごしてもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっており、ゆっくり話せる環境づくりをしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしているが、コロナ禍で十分にはできていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	◎	/	○	現在のコロナ禍において、事業所では面会や外出の制限を設けているが、自宅を忘れる不安を強く訴え、帰宅希望がある利用者には、条件付きで1時間だけ自宅に戻って過ごせるよう配慮した対応をしたこともある。また、利用者や家族の要望や、その時々々の状況に合わせて、職員が病院受診の送迎を支援するなど、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外には縁台が設置してあり、利用者や来訪者がくつろげるスペースとして活用されている。玄関周りは出入りしやすい広々とした空間があるとともに、玄関奥にはリビングに面した中庭があり、桜や紅葉などの植栽が季節を感じさせてくれる。また、リビングからは玄関前の来訪者の様子がよく見え、現在のコロナ禍の面会制限下において、家族はリビングでの利用者の様子を確認することができている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがあふれている。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに飾るようになっている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	◎	◎	○	玄関を入ると広々とした空間に、観葉植物が置かれている。リビングにはテーブル席のほか、ソファが置かれ、訪問調査日には利用者が思い思いの場所でくつろぐ様子を見ることができた。リビングに面した台所は、カウンター上部がガラス戸になっており、利用者等は調理の様子がよく見えるようになっている。また、同じフロアのユニット間は、利用者等が自由に行き来することができる構造となっている。さらに、共用空間は掃除や換気も行き届き、廊下には邪魔となる物を置かず、広々とした移動しやすい動線が確保されている。加えて、随所にさりげなく小花を飾っており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的な掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。月に1回掲示板を作成し、行事やイベント情報や写真などを掲示したり、行事ごとの飾りもしている。	○				○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。	○				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、本棚など持って来て使ってもらっている。本人さんや家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。本が好きならば、本棚を持って来られ、いつでも読書ができるようにしている。	◎		○	居室にはベッドや寝具、たんす、テレビなどが設置されている。馴染みの物を持ち込むこともでき、クッションや写真、手作りの置物など好みの物を飾り、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手すりや設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	事業所内はバリアフリー構造で、各所に手すりが設置されるなど、利用者にとって移動しやすい環境となっている。居室の扉には表札のほか、事業所名でもあるフルーツの写真を貼り、自分の居室を分かりやすくするなど、利用者が安心安全に自立した生活が送れるよう配慮している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないよう心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見られるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	○				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない。やむを得ず職員の目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は社内研修等で学び、玄関やフロアの出入り口に鍵をかけることの弊害について、理解している。日中玄関は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。また、玄関にはセンサーチャイム機能が設置され、職員には利用者や来訪者の行き来が分かりやすくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入口はやむを得ない時以外は施錠はしていない。ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。外部との出入り口には人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	○				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。変化や追加があれば、その都度、赤で記入している。訪問診療所もカルテに入れている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間も、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。薬の変更があった時は必ず申し送りして伝えている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」があり、入居時に利用者や家族に説明するとともに、延命の希望や事業所での看取り介護の希望を確認して書面に残している。利用者の状況の変化に伴い、主治医を含めた関係者で話し合う機会を設け、方針を共有して支援をしている。また、代表者は看護師資格を持っており、看取り時には訪問看護と協力しながら、自らも支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。コロナウイルス感染症予防の為、手洗い、マスク、検温を徹底している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュとヒビスコール、ペーパータオルを設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつくりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。				コロナ禍以前は、年1回家族会を実施するほか、運営推進会議に家族の参加を呼びかけたり、事業所の行事案内を送付して参加を募ったりするなど、参加協力を得ることができていた。現在のコロナ禍において、事業所には入室制限が設けられているため、家族が来訪し対面する機会は激減し、毎月利用者の生活の様子を職員が電話連絡をするともに、家族から心配事や要望を聞き取り、対応をしている。また、2～3か月に1回は、ホームからのお便りなどを送付し、写真やコメントを添えて利用者の様子を伝えている。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議の報告書を送付しているものの、利用者家族等アンケートの結果から、家族から十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には面会時に簡単に伝えたり、家族会時を活用して報告をしたりするなど、家族への伝達方法を工夫することを期待したい。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。誕生会やおやつ作り等には、家族さんにも参加してもらっているが、コロナ禍で今は参加できていない。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。		◎			○
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙や電話でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。		◎			○
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善していつている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時や電話にて生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告したり、日々の生活をスライドショーで見てもらっている。新規採用などがあれば紹介している。		x			△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	○	/	現在のコロナ禍において、地域と交流する機会は激減したものの、法人・事業所としてこれまでに築いてきた地域との関係や絆は、地域住民等に理解されている。コロナ禍以前は、毎月事業所で認知症カフェを開催し、地域住民や関係者の参加協力を得ることができていた。花見や運動会などの地域行事に利用者と一緒に参加したり、保育園児との交流やボランティアの受け入れなどに協力することもできていた。コロナ禍においても、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう工夫しながら働きかけを継続していくとともに、コロナ禍の収束後には、早期に地域との交流が再開できることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	/	○	/	コロナ禍以前の運営推進会議には、約8名の利用者が参加するほか、多数の家族や近隣住民、民生委員、警察署、消防署、市担当者などの多くの参加を得て、開催することができていた。現在のコロナ禍において、会議は文書開催となっているが、事前に会議の参加メンバーに、利用者の様子やサービスの実績、評価への取り組み状況のほか、ミニ介護講座等も含めた資料を送付し、意見や要望を聞くことができていた。参加者から出された意見は、日々のサービスに活かすとともに、次回の会議等で結果を報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実績や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	法人・事業所として、毎月社内研修を実施し、職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得をサポートする体制ができている。事業所では、年1回ストレスチェックを実施し、結果によってはカウンセリングを受けられる体制を整え、職員のストレス軽減に努めている。また、代表者は管理者や職員と話す機会も多く、勤務状況などを把握し、相談等にも応じている。さらに、事業所では、職員の事情による時短勤務や希望休の取得にも対応するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。業務改善報告書も書いてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。その都度、ケース検討会を行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りにも努めている。			○	日常的に、職員は利用者から意見や要望を聞いている。自ら伝えることのできない利用者には、表情やしぐさからくみ取るなどの配慮をしている。家族からは、毎月の電話連絡時やケアプランの説明時に担当職員等が意見を聞くほか、運営推進会議のアンケートなどを活用して、意見を出してもらえるよう努めている。また、管理者は朝の申し送りや職員会議等を活用して職員から意見を聞くほか、日々の業務の中でも意見を聞く機会があり、利用者本位のサービスにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りにも努めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討している。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果や目標達成計画、取組み状況は、運営推進会議の中で報告しているものの、会議に参加していない家族にまでは伝えることができていない。今後は、サービスの評価結果や取組み状況をまとめて、全ての家族に報告したり、コロナ禍の収束後には、家族に呼びかけて取組み状況の確認などのモニターしてもらったりするなど、さらなる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺ったり、1階と2階でモニターをするようにしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の為、制限があり、十分にできていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	事業所では、年2回消防署との合同訓練を実施し、指導を受けている。また、法人として、「避難訓練・年間スケジュール表」を作成し、毎月1回昼夜や様々な災害を想定した避難訓練等を実施している。訓練では実際に、法人内の他の事業所へ避難するなどの合同訓練も実施し、協力支援体制を整備している。さらに、運営推進会議等を活用して、関係者と防災等の話し合いをすることができている。管理者等は、今後災害時における地域との連携・協力体制をより充実させていくことを考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的の連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をしてもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	コロナ禍以前は、毎月事業所を活用して認知症カフェを開催し、相談支援の場として活用することができていた。事業所は地域での認知度が高く、地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として、様々な相談を受けるなどの対応をしている。また、ボランティアや実習生、外国人の技能実習生などを受け入れにも協力をしている。さらに、市行政と連携を取り、代表者が介護教室の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信をすることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	◎	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和元年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。	/	/	◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 5 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 36名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 2ユニット
記入者(管理者) 氏名	福永 智子
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテのAP欄に、SO欄の事実に対して、思ったこと、考えたことを記入し、ケアプランにつなげていく事に取り組んできたが、十分にできていない。アセスメントシートには、変化を赤ペンでの記入はできている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は開設して21年目を迎え、現在の場所に移転した建物は明るく、清潔感がある。建物内部はバリアフリー構造で、利用者や来訪者はユニット間の自由な出入りもできるとともに、随所に季節の小花が活けられ、開放的で心和む空間となっている。コロナ禍以前には、併設のデイサービスの利用者との交流も行われていた。現在のコロナ禍においても、事業所には面会や外出などの制限が設けられているものの、人混みを避けて、時期をずらしながらドライブがてらに花見や初詣に出かけたり、事業所内で夏祭りを開催する工夫をしたりするなど、利用者が気分転換をしながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。また、法人内において、年間計画を立てて毎月実施する社内研修も充実しており、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持に向けたケアを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、毎月認知症カフェを開催し、地域への啓発活動や情報発信などを積極的に進めたりするなど、地域の総合相談窓口としても信頼されている。</p>
---------------------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気にかけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。</p> <p>家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。</p> <p>家族さんや友人の方が面会に来られた時や電話にて、情報が得られるように努力をしている。</p> <p>本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。</p> <p>カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。</p>	○	○	○	<p>アセスメントシートを活用して、利用者の昔の生活や今の生活、今できることなどを、担当職員等が利用者や家族から聞き取り、整理して記録に残している。また、日々のかかわりの中で、職員は利用者や家族、友人などから、新たな情報を得ることもあり、赤字で追記して職員間で共有している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していただ方には、情報を提供してもらっている。</p> <p>カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。</p> <p>日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。</p> <p>カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。主治医からの報告書もカルテに挟み、職員間で共有している。</p> <p>カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。</p>	○	○	○	<p>入居時に、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしなどを聞き取るほか、これまでかかわってきた介護支援専門員や病院の相談員などの関係者から、情報を収集することもある。また、聞き取った内容や得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートに整理するとともに、新たに得られた情報は赤字で追記して、職員間で共有している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送り時に伝えている。夕方にも夜勤者に申し送りしている。</p> <p>利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。</p> <p>気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。</p>	○	○	○	<p>事業所では、担当職員がアセスメントシートを作成している。日々のかかわりの中で、職員が利用者や家族から新たに得た情報を追記し、朝夕の申し送り等を活用して情報共有するとともに、利用者本人の視点に立ち、より良いサービス提供ができるよう検討している。</p>

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気付きや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族の意向のほか、職員が得た情報、主治医からの診療報告書や計画書をもとに職員間で話し合うなど、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。また、担当者会議の中で参加者から意見をもらい、作成した介護計画は家族に説明し、了承を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	◎ 個別ファイルの介護記録用紙の並びに、アセスメントシートと介護計画を両面コピーをして綴じており、職員は介護計画を確認しながらサービスの実施記録等が記載できるよう工夫されている。また、申し送り時等に、利用者の状況を職員間で共有しながら、日々の支援につなげている。利用者の日々の暮らしの様子は、発した言葉や行動、エピソードなどを詳しく記録することができている。さらに、職員の気づきやアイデアは、申し送りノートやアセスメントシートへ追記することができている。個別の介護記録のAP欄をさらに有効活用できるよう、今後も継続した取組みを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP欄も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	アセスメントシートやフェイスシートに記入したり、カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	○ 介護計画は6か月に1回を基本として、見直しをしている。入居直後や退院後などには、利用者の様子を観察等しながら、3か月に1回見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月モニタリングを行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状況に変化が見られた場合には、必要に応じて担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	◎ 事業所では月1回職員会議を、全ての職員の参加を原則のもとで開催している。会議の中では、計画的な研修や勉強会を実施している。毎朝の申し送りは、1階と2階に分かれて各ユニット合同で実施するとともに、サービス担当者会議を開催するなど、利用者の情報共有に努めている。また、緊急案件がある場合には、その都度職員間で話し合う機会を設けている。さらに、会議に参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、ほか、管理者が直接説明している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作りや心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用して行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してサインしてもらっている。大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。又、申し送りノートも確認してもらっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。申し送りノートも活用している。	/	/	/	◎ 申し送り等を活用して、情報伝達をしている。また、申し送りノートや議事録を回覧し、確認後に職員はサインをしているほか、重要事項は管理者が直接説明し、確実な情報伝達につなげている。さらに、病院受診の情報はケアプランファイルに綴じて回覧するほか、医師の指示は介護記録のAP欄に赤字で囲み、分かりやすくなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。申し送りノートを作り、少しの変化も記入し、把握できるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。	/	/	/	飲み物や衣服など、職員はその日の気分により、利用者自身が選べるよう声をかけている。職員は生活のあらゆる場面で利用者の意向を考えたかかわりを大切にしており、家族のことを話題に出したり、親しみのある呼びかけをしたりするなど、利用者一人ひとりに合わせたかかわりを通して、生き活きた言動や表情を引き出すことができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉(かけや雰囲気づくり)をしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	◎	○	◎	利用者の人権や尊厳について、職員は社内研修等で学ぶ機会がある。職員はプライバシーを大切にしたい声かけや態度を常に意識し、基本的に丁寧な言葉づかいで、利用者を目線に合わせて話しかけることを心がけており、訪問調査日には穏やかに利用者に声をかける職員の様子を確認することができた。また、法人・事業所として、「喋れなくても耳は聞こえる」ということを意識しており、職員は介護の誘導時などもさりげない声かけで、利用者が安心できるよう対応している。さらに、居室への出入りの際には、職員は必ずノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、利用者に声かけてから出入りすることができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事無ないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っはならないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けを求めたり教えをもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性を把握できており、仲の良さを考慮した配席にしている。時には、気分転換で席替えを行い、利用者一人ひとりの様子を見ながら、快適に過ごせるよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所ドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮している。コロナウィルス感染症の為、面会自粛中は、ホールの窓から会ってもらっている。電話でも話してもらっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、花を見たりしている。畑を見に行ったり、野菜の収穫も行っている。	○	◎	◎	現在のコロナ禍において、以前のようなデイサービスの利用者や各フロア間の利用者同士の交流は避けているものの、同フロアのユニット間は自由に入出し、交流することができている。事業所では人混みを避けて、時期をずらしてドライブがてらに花見や初詣に出かけるなど、感染症対策をしながら、利用者が気分転換できるよう努めている。また、日常的に1階フロアの利用者は庭にある畑に出かけたり、2階フロアの利用者はベランダでスイカを栽培したりするなど、外気に触れることもできる活動を支援している。さらに、重度の利用者も同様に、外の空気を吸えるよう支援している。外出できる機会は減っているものの、事業所内で夏祭りを開催する工夫をするなど、利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。畑で野菜の収穫も一緒に見てもらっている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援しているが、コロナ禍で十分にできていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの能力をしっかりと把握できており、アセスメントシートに、「今できること」を書き込むことができています。利用者一人ひとりに洗濯物たたみや台拭き、おやつや果物の皮むきなど、できることに取り組んでもらい、職員はできるだけ手や口を出さずに見守りや待つ介護をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りしている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらっている。	/	◎	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	事業所では、フェイスシートやアセスメントシートに、できることを記録するなど、利用者一人ひとりの理解に努めている。洗濯物たたみや台拭きなどの家事を役割にするほか、他の利用者が食が進まない利用者へ声をかけをしたり、目が見えない利用者に声をかけながら介助をしたりするなど、利用者同士で助け合いながら、寄り添える良好なコミュニティができています。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといてもらったりしている。				食事の際に、食べこぼしがある利用者には、職員は食事前のエプロンの代わりに食事専用のタオルを胸元に当てて、さりげなく口元を拭くなどの支援をしている。また、重度の利用者も本人の好きな色の服を選び、好みの髪型に整えることができています。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。スタッフと一緒に衣替えもしてもらっている。夏祭りに馴染みの基平を着て頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれるが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				法人の栄養士が献立を作成し、フロア毎の厨房で調理専属の職員が調理している。食材は業者に発注しているものの、コロナ禍以前は、おやつなどの食材を利用者と一緒に買い物に行くことができていた。調理の下ごしらえや後片づけなど、できることを利用者と一緒に行っている。献立づくりの際に、利用者の好みやアレルギー、リクエストなどを考慮し、菜園で採れた旬の野菜を使用するなど、季節が感じられる物を取り入れている。メニューは全体的に減塩で、利用者一人ひとりの食事形態に合わせて、切り方や柔らかさなどにも配慮している。食器類は、事業所で軽く使いやすい物を用意しているが、自分の物を使用している利用者もいる。また、職員は利用者と一緒に関わり、サポートをしながら食事を摂ることができている。リビングには一日のメニューが掲示されているとともに、重度の利用者を含め、ガラス越しの厨房の様子や漂う匂いで、食事の楽しさを感じさせている。さらに、食事の栄養バランスは栄養士に任せているが、職員はしっかり水分が摂れるような汁物や1日2回の果物の摂取希望などを伝えることができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗ひ物は、出来る利用者が時々してくれている。月に1回おやつ作りを行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでくれる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれる。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手なもの、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのコップを使用してお茶を飲まれている人もいる。使いやすいスプーンやフォークを使用している人もいる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれる。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんと職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれる。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。				職員は社内研修で学び、口腔ケアの重要性を理解している。月2回訪問歯科の来訪があり、口腔内のアセスメントや口腔ケアの指導を受けるなど、職員は利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握することができている。毎食後、職員が口腔ケアの声かけを行い、自分で歯磨き等ができる利用者には見守りながら口腔内の状況を確認するなど、日常的に口腔内の清潔保持を支援している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導してもらっている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				事業所では、座位がとれない利用者以外は、トイレでの排泄を基本として支援をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、利用者の状態に合わせて、職員間で適切な排泄用品を検討し、家族に確認のうえ使用している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっている。			◎	○	事業所として、入浴できる曜日や時間帯は特に決めておらず、利用者の希望を確認しながら入浴支援をしている。利用者は、夏場には週3回、冬場は週2~3回を基本として、入浴することができる。利用者の要望に応じて、毎日の入浴希望にも対応することができている。また、湯の温度や湯船に浸かる時間などは、利用者の体調を見ながら個別に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたりスタッフを交代して、気持ち良く入ってもらいように工夫している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所では、利用者の安全性を考慮して、基本的に睡眠導入剤や安定剤などの服薬には頼らない方針としている。入居前に内服していた利用者も、入居した時点で服薬を中止してもらっている。日中の活動を増やしたり、紫外線を浴びたりするなど、利用者の生活リズムを整える工夫をしながら、夜間に安眠できるよう努めている。また、どうしても眠れない利用者や、夜間覚醒している利用者には、リビングに出て職員と一緒に過ごしてもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	◎	/	○	現在のコロナ禍において、事業所では面会や外出の制限を設けているが、自宅を忘れる不安を強く訴え、帰宅希望がある利用者には、条件付きで1時間だけ自宅に戻って過ごせるよう配慮した対応をしたこともある。また、利用者や家族の要望や、その時々々の状況に合わせて、職員が病院受診の送迎を支援するなど、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外には縁台が設置してあり、利用者や来訪者がくつろげるスペースとして活用されている。玄関周りは出入りしやすい広々とした空間があるとともに、玄関奥にはリビングに面した中庭があり、桜や紅葉などの植栽が季節を感じさせてくれる。また、リビングからは玄関前の来訪者の様子がよく見え、現在のコロナ禍の面会制限下において、家族はリビングでの利用者の様子を確認することができている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	◎	◎	○	玄関を入ると広々とした空間に、観葉植物が置かれている。リビングにはテーブル席のほか、ソファが置かれ、訪問調査日には利用者が思い思いの場所でくつろぐ様子を見ることができた。リビングに面した台所は、カウンター上部がガラス戸になっており、利用者等は調理の様子がよく見えるようになっている。また、同じフロアのユニット間は、利用者等が自由に往来することができる構造となっている。さらに、共用空間は掃除や換気も行き届き、廊下には邪魔となる物を置かず、広々とした移動しやすい動線が確保されている。加えて、随所にさりげなく小花を飾っており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的な掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。月に1回掲示板を作成している。行事やイベントの日時、写真を貼って楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。	○				○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。	○				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	居室にはベッドや寝具、たんす、テレビなどが設置されている。馴染みの物を持ち込むこともでき、クッションや写真、手作りの置物など好みの物を飾り、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手擦りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	事業所内はバリアフリー構造で、各所に手すりが設置されるなど、利用者にとって移動しやすい環境となっている。居室の扉には表札のほか、事業所名でもあるフルーツの写真を貼り、自分の居室を分かりやすくするなど、利用者が安心安全に自立した生活が送れるよう配慮している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないよう心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見られるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	○				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない。やむを得ず職員の目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は社内研修等で学び、玄関やフロアの出入り口に鍵をかけることの弊害について、理解している。日中玄関は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。また、玄関にはセンサーチャイム機能が設置され、職員には利用者や来訪者の行き来が分かりやすくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入口はやむを得ない時以外は施錠はしていない。ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。外部との出入り口には人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	○				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。変更があれば、赤で記入している。訪問診療報告書もカルテに入れている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間も、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」があり、入居時に利用者や家族に説明するとともに、延命の希望や事業所での看取り介護の希望を確認して書面に残している。利用者の状況の変化に伴い、主治医を含めた関係者で話し合う機会を設け、方針を共有して支援をしている。また、代表者は看護師資格を持っており、看取り時には訪問看護と協力しながら、自らも支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作って、汚物処理セットも用意している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。コロナウイルス感染症の予防の為、手洗い、マスク、消毒、検温を徹底している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュとヒビスコール、ペーパータオルを設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆとりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。				コロナ禍以前は、年1回家族会を実施するほか、運営推進会議に家族の参加を呼びかけたり、事業所の行事案内を送付して参加を募ったりするなど、参加協力を得ることができていた。現在のコロナ禍において、事業所には入室制限が設けられているため、家族が来訪し対面する機会は激減し、毎月利用者の生活の様子を職員が電話連絡をするとともに、家族から心配事や要望を聞き取り、対応をしている。また、2～3か月に1回は、ホームからのお便りなどを送付し、写真やコメントを添えて利用者の様子を伝えている。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議の報告書を送付しているものの、利用者家族等アンケートの結果から、家族から十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には面会時に簡単に伝えたり、家族会時を活用して報告をしたりするなど、家族への伝達方法を工夫することを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙や電話でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善して行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時や電話にて生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告をするようにしており、日頃の生活をスライドショーで見てもらっている。新規採用などがあれば紹介している。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	○	/	現在のコロナ禍において、地域と交流する機会は激減したものの、法人・事業所としてこれまでに築いてきた地域との関係や絆は、地域住民等に理解されている。コロナ禍以前は、毎月事業所で認知症カフェを開催し、地域住民や関係者の参加協力を得ることができていた。花見や運動会などの地域行事に利用者と一緒に参加したり、保育園児との交流やボランティアの受け入れなどに協力することもできていた。コロナ禍においても、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう工夫しながら働きかけを継続していくとともに、コロナ禍の収束後には、早期に地域との交流が再開できることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	/	○	/	コロナ禍以前の運営推進会議には、約8名の利用者が参加するほか、多数の家族や近隣住民、民生委員、警察署、消防署、市担当者などの多くの参加を得て、開催することができていた。現在のコロナ禍において、会議は文書開催となっているが、事前に会議の参加メンバーに、利用者の様子やサービスの実際、評価への取り組み状況のほか、ミニ介護講座等も含めた資料を送付し、意見や要望を聞くことができていた。参加者から出された意見は、日々のサービスに活かすとともに、次回の会議等で結果を報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、毎月社内研修を実施し、職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得をサポートする体制ができている。事業所では、年1回ストレスチェックを実施し、結果によってはカウンセリングを受けられる体制を整え、職員のストレス軽減に努めている。また、代表者は管理者や職員と話す機会も多く、勤務状況などを把握し、相談等にも応じている。さらに、事業所では、職員の事情による時短勤務や希望休の取得にも対応するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	職員は社内研修等で虐待や不適切なケアを学び、注意を払った対応に努めている。日々の業務の中で、不適切な対応が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、何かあれば管理者に報告している。また、身体的な異常が見られた場合には事故報告書を作成し、様々な機会を設けて検討をするほか、事業所全体で情報を共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。業務改善報告書も書いてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。その都度、ケース検討会議をしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。			○	日常的に、職員は利用者から意見や要望を聞いている。自ら伝えることのできない利用者には、表情やしぐさからくみ取るなどの配慮をしている。家族からは、毎月の電話連絡時やケアプランの説明時に担当職員等が意見を聞くほか、運営推進会議のアンケートなどを活用して、意見を出してもらえるよう努めている。また、管理者は朝の申し送りや職員会議等を活用して職員から意見を聞くほか、日々の業務の中でも意見を聞く機会があり、利用者本位のサービスにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。			◎	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果や目標達成計画、取組み状況は、運営推進会議の中で報告しているものの、会議に参加していない家族にまでは伝えることができていない。今後は、サービスの評価結果や取組み状況をまとめて、全ての家族に報告したり、コロナ禍の収束後には、家族に呼びかけて取組み状況の確認などのモニターしてもらったりするなど、さらなる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺ったり、1階と2階でモニターをするようにしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の為、制限があり、十分にできていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。				事業所では、年2回消防署との合同訓練を実施し、指導を受けている。また、法人として、「避難訓練・年間スケジュール表」を作成し、毎月1回昼夜や様々な災害を想定した避難訓練等を実施している。訓練では実際に、法人内の他の事業所へ避難するなどの合同訓練も実施し、協力支援体制を整備している。さらに、運営推進会議等を活用して、関係者と防災等の話し合いをすることができている。管理者等は、今後災害時における地域との連携・協力体制をより充実させていくことを考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的の連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をしてもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。				コロナ禍以前は、毎月事業所を活用して認知症カフェを開催し、相談支援の場として活用することができていた。事業所は地域での認知度が高く、地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として、様々な相談を受けるなどの対応をしている。また、ボランティアや実習生、外国人の技能実習生などを受け入れにも協力をしている。さらに、市行政と連携を取り、代表者が介護教室の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信をすることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。		◎	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。フィリピンからの実習生も受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 5 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 36名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 3ユニット
記入者(管理者) 氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテのAP欄に、SO欄の事実に対して、思ったこと、考えたことを記入し、ケアプランにつなげていく事に取り組んできたが、十分にできていない。アセスメントシートには、変化を赤ペンでの記入はできている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は開設して21年目を迎え、現在の場所に移転した建物は明るく、清潔感がある。建物内部はバリアフリー構造で、利用者や来訪者はユニット間の自由な出入りもできるとともに、随所に季節の小花が活けられ、開放的で心和む空間となっている。コロナ禍以前には、併設のデイサービスの利用者との交流も行われていた。現在のコロナ禍においても、事業所には面会や外出などの制限が設けられているものの、人混みを避けて、時期をずらしながらドライブがてらに花見や初詣に出かけたり、事業所内で夏祭りを開催する工夫をしたりするなど、利用者が気分転換をしながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。また、法人内において、年間計画を立てて毎月実施する社内研修も充実しており、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持に向けたケアを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、毎月認知症カフェを開催し、地域への啓発活動や情報発信をなど積極的に進めたりするなど、地域の総合相談窓口としても信頼されている。</p>
---------------------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気にかけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。</p> <p>家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。</p> <p>家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。</p> <p>本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。</p> <p>カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、利用者さんの発する言葉や表情等を大切に、日々確認しながら支援している。</p>	○	○	○	アセスメントシートを活用して、利用者の昔の生活や今の生活、今できることなどを、担当職員等が利用者や家族から聞き取り、整理して記録に残している。また、日々のかかわりの中で、職員は利用者や家族、友人などから、新たな情報を得ることもあり、赤字で追記して職員間で共有している。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していただ方には、情報を提供してもらっている。</p> <p>カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。</p> <p>日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。</p> <p>カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。</p> <p>カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。</p>	○	○	○	入居時に、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしなどを聞き取るほか、これまでかかわってきた介護支援専門員や病院の相談員などの関係者から、情報を収集することもある。また、聞き取った内容や得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートに整理するとともに、新たに得られた情報は赤字で追記して、職員間で共有している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送り時に伝えている。</p> <p>利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。</p> <p>気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。</p>	○	○	○	事業所では、担当職員がアセスメントシートを作成している。日々のかかわりの中で、職員が利用者や家族から新たに得た情報を追記し、朝夕の申し送り等を活用して情報共有するとともに、利用者本人の視点に立ち、より良いサービス提供ができるよう検討している。

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気付きや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族の意向のほか、職員が得た情報、主治医からの診療報告書や計画書をもとに職員間で話し合うなど、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。また、担当者会議の中で参加者から意見をもらい、作成した介護計画は家族に説明し、了承を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	◎ 個別ファイルの介護記録用紙の並びに、アセスメントシートと介護計画を両面コピーをして綴じており、職員は介護計画を確認しながらサービスの実施記録等が記載できるよう工夫されている。また、申し送り時等に、利用者の状況を職員間で共有しながら、日々の支援につなげている。利用者の日々の暮らしの様子は、発した言葉や行動、エピソードなどを詳しく記録することができている。さらに、職員の気づきやアイデアは、申し送りノートやアセスメントシートへ追記することができている。個別の介護記録のAP欄をさらに有効活用できるよう、今後も継続した取組みを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP覧も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	アセスメントシートやフェイスシートに記入したり、カルテのAP欄に、記入するように努めている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	○ 介護計画は6か月に1回を基本として、見直しをしている。入居直後や退院後などには、利用者の様子を観察等しながら、3か月に1回見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月モニタリングを行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状況に変化が見られた場合には、必要に応じて担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	◎ 事業所では月1回職員会議を、全ての職員の参加を原則のもとで開催している。会議の中では、計画的な研修や勉強会を実施している。毎朝の申し送りは、1階と2階に分かれて各ユニット合同で実施するとともに、サービス担当者会議を開催するなど、利用者の情報共有に努めている。また、緊急案件がある場合には、その都度職員間で話し合う機会を設けている。さらに、会議に参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、ほか、管理者が直接説明している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作り心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用して行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	議事録を確認してもらったり、大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。また、日を改めて個別に伝えている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。	/	/	/	◎ 申し送り等を活用して、情報伝達をしている。また、申し送りノートや議事録を回覧し、確認後に職員はサインをしているほか、重要事項は管理者が直接説明し、確実な情報伝達につなげている。さらに、病院受診の情報はケアプランファイルに綴じて回覧するほか、医師の指示は介護記録のAP欄に赤字で囲み、分かりやすくしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。	/	/	/	飲み物や衣服など、職員はその日の気分により、利用者自身が選べるよう声をかけている。職員は生活のあらゆる場面で利用者の意向を考えたかかわりを大切にしており、家族のことを話題に出したり、親しみのある呼びかけをしたりするなど、利用者一人ひとりに合わせたかかわりを通して、生き活きた言動や表情を引き出すことができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛け、言葉遣いにも気を付けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	◎	○	◎	利用者の人権や尊厳について、職員は社内研修等で学ぶ機会がある。職員はプライバシーを大切にしたい声かけや態度を常に意識し、基本的に丁寧な言葉づかいで、利用者との目線を合わせて話しかけることを心がけており、訪問調査日には穏やかに利用者へ声をかける職員の様子を確認することができた。また、法人・事業所として、「喋れなくても耳は聞こえる」ということを意識しており、職員は介護の誘導時などもさりげない声かけで、利用者が安心できるよう対応している。さらに、居室への出入りの際には、職員は必ずノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、利用者へ声をかけてから出入りすることができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事無ないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っはならないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けを求めたり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性を把握できており、仲の良さを考慮した配席にしている。時には、気分転換で席替えを行い、利用者一人ひとりの様子を見ながら、快適に過ごせるよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所にドライブなどで出かける事はあるが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、出来るだけ、希望に添えるように努力をしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮しているが、新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、面会を制限して、状況を確認しながら、玄関先や窓越しの面会をしてもらっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせるように努めている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、ベランダに出てもらって気分転換をしてもらっている。今年は2階のベランダで、種からまいたスイカをみんなと一緒に育ててもらっている。	○	◎	◎	現在のコロナ禍において、以前のようなデイサービスの利用者や各フロア間の利用者同士の交流は避けているものの、同フロアのユニット間は自由に入出し、交流することができている。事業所では人混みを避けて、時期をずらしてドライブがてらに花見や初詣に出かけるなど、感染症対策をしながら、利用者が気分転換できるよう努めている。また、日常的に1階フロアの利用者は庭にある畑に出かけたり、2階フロアの利用者はベランダでスイカを栽培したりするなど、外気に触れることもできる活動を支援している。さらに、重度の利用者も同様に、外の空気を吸えるよう支援している。外出できる機会は減っているものの、事業所内で夏祭りを開催する工夫をするなど、利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっていたが、新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、中止している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援しているが、新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、状況を確認しながら、出来るだけ希望がかなえられるように努めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの能力をしっかりと把握できており、アセスメントシートに、「今できること」を書き込むことができている。利用者一人ひとりに洗濯物たたみや台拭き、おやつや果物の皮むきなど、できることに取り組んでもらい、職員はできるだけ手や口を出さずに見守りや待つ介護をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように根気よく声掛け見守りをしている。家事全般が得意な人には、日課としてもらうようにしている。	/	◎	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	事業所では、フェイスシートやアセスメントシートに、できることを記録するなど、利用者一人ひとりの理解に努めている。洗濯物たたみや台拭きなどの家事を役割にするほか、他の利用者が食が進まない利用者へ声かけをしたり、目が見えない利用者に声をかけながら介助をしたりするなど、利用者同士で助け合いながら、寄り添える良好なコミュニティができていく。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといてもらったりしている。				食事の際に、食べこぼしがある利用者には、職員は食事前のエプロンの代わりに食事専用のタオルを胸元に当てて、さりげなく口元を拭くなどの支援をしている。また、重度の利用者も本人の好きな色の服を選び、好みの髪型に整えることができています。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄、嫌いな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれるが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行けるように配慮をしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				法人の栄養士が献立を作成し、フロア毎の厨房で調理専属の職員が調理している。食材は業者に発注しているものの、コロナ禍以前は、おやつなどの食材を利用者と一緒に買い物に行くことができていた。調理の下ごしらえや後片づけなど、できることを利用者と一緒に行っている。献立づくりの際に、利用者の好みやアレルギー、リクエストなどを考慮し、菜園で採れた旬の野菜を使用するなど、季節が感じられる物を取り入れている。メニューは全体的に減塩で、利用者一人ひとりの食事形態に合わせて、切り方や柔らかさなどにも配慮している。食器類は、事業所で軽く使いやすい物を用意しているが、自分の物を使用している利用者もいる。また、職員は利用者と一緒に同じ食卓を囲み、サポートをしながら食事を摂ることができている。リビングには一日のメニューが掲示されているとともに、重度の利用者を含め、ガラス越しの厨房の様子や漂う匂いで、食事の楽しさを感じさせている。さらに、食事の栄養バランスは栄養士に任せているが、職員はしっかり水分が摂れるような汁物や1日2回の果物の摂取希望などを伝えることができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗い物は、出来る利用者さんが時々してくれている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでくれる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとに食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれる。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手なもの、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、軽くて持ちやすいものを使用している。コップや湯飲みは、その人に合った物を使用してもらっている。本人専用の湯飲みを使っている人もいる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べるなどの配慮をしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれる。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんと職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれる。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。				職員は社内研修で学び、口腔ケアの重要性を理解している。月2回訪問歯科の来訪があり、口腔内のアセスメントや口腔ケアの指導を受けるなど、職員は利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握することができている。毎食後、職員が口腔ケアの声かけを行い、自分で歯磨き等ができる利用者には見守りながら口腔内の状況を確認するなど、日常的に口腔内の清潔保持を支援している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導してもらっている。			◎		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				事業所では、座位がとれない利用者以外は、トイレでの排泄を基本として支援をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、利用者の状態に合わせて、職員間で適切な排泄用品を検討し、家族に確認のうえ使用している。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。			◎		○
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、1日2回のラジオ体操やホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっている。			◎	○	事業所として、入浴できる曜日や時間帯は特に決めておらず、利用者の希望を確認しながら入浴支援をしている。利用者は、夏場には週3回、冬場は週2~3回を基本として、入浴することができる。利用者の要望に応じて、毎日の入浴希望にも対応することができている。また、湯の温度や湯船に浸かる時間などは、利用者の体調を見ながら個別に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたりスタッフを交代して、気持ち良く入ってもらいように工夫している。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。					

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所では、利用者の安全性を考慮して、基本的に睡眠導入剤や安定剤などの服薬には頼らない方針としている。入居前に内服していた利用者も、入居した時点で服薬を中止してもらっている。日中の活動を増やしたり、紫外線を浴びたりするなど、利用者の生活リズムを整える工夫をしながら、夜間に安眠できるよう努めている。また、どうしても眠れない利用者や、夜間覚醒している利用者には、リビングに出て職員と一緒に過ごしてもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	◎	/	○	現在のコロナ禍において、事業所では面会や外出の制限を設けているが、自宅を忘れる不安を強く訴え、帰宅希望がある利用者には、条件付きで1時間だけ自宅に戻って過ごせるよう配慮した対応をしたこともある。また、利用者や家族の要望や、その時々々の状況に合わせて、職員が病院受診の送迎を支援するなど、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外には縁台が設置してあり、利用者や来訪者がくつろげるスペースとして活用されている。玄関周りは出入りしやすい広々とした空間があるとともに、玄関奥にはリビングに面した中庭があり、桜や紅葉などの植栽が季節を感じさせてくれる。また、リビングからは玄関前の来訪者の様子がよく見え、現在のコロナ禍の面会制限下において、家族はリビングでの利用者の様子を確認することができている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	◎	◎	○	玄関を入ると広々とした空間に、観葉植物が置かれている。リビングにはテーブル席のほか、ソファが置かれ、訪問調査日には利用者が思い思いの場所でくつろぐ様子を見ることができた。リビングに面した台所は、カウンター上部がガラス戸になっており、利用者等は調理の様子がよく見えるようになっている。また、同じフロアのユニット間は、利用者等が自由に行き来することができる構造となっている。さらに、共用空間は掃除や換気も行き届き、廊下には邪魔となる物を置かず、広々とした移動しやすい動線が確保されている。加えて、随所にさりげなく小花を飾っており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的な掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	居室にはベッドや寝具、たんす、テレビなどが設置されている。馴染みの物を持ち込むこともでき、クッションや写真、手作りの置物など好みの物を飾り、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手すりを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	事業所内はバリアフリー構造で、各所に手すりが設置されるなど、利用者にとって移動しやすい環境となっている。居室の扉には表札のほか、事業所名でもあるフルーツの写真を貼り、自分の居室を分かりやすくするなど、利用者が安心安全に自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないように心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見られるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニットが2階にあり、ユニットの入り口に階段がある為、安全を考慮して鍵をかけているが、ユニット間は、自由に行き来できるように施錠はしていない。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は社内研修等で学び、玄関やフロアの出入り口に鍵をかけることの弊害について、理解している。日中玄関は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。また、玄関にはセンサーチャイム機能が設置され、職員には利用者や来訪者の行き来が分かりやすくなっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着いた時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ユニット間は施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。玄関、外部との出入り口には、人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間もおり、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルデに入れている。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」があり、入居時に利用者や家族に説明するとともに、延命の希望や事業所での看取り介護の希望を確認して書面に残している。利用者の状況の変化に伴い、主治医を含めた関係者で話し合う機会を設け、方針を共有して支援をしている。また、代表者は看護師資格を持っており、看取り時には訪問看護と協力しながら、自らも支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作ってあり、汚物処理セットも用意している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウオッシュと消毒剤、ペーパータオルを設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつくりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。				コロナ禍以前は、年1回家族会を実施するほか、運営推進会議に家族の参加を呼びかけたり、事業所の行事案内を送付して参加を募ったりするなど、参加協力を得ることができていた。現在のコロナ禍において、事業所には入室制限が設けられているため、家族が来訪し対面する機会は激減し、毎月利用者の生活の様子を職員が電話連絡をするとともに、家族から心配事や要望を聞き取り、対応をしている。また、2～3か月に1回は、ホームからのお便りなどを送付し、写真やコメントを添えて利用者の様子を伝えている。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議の報告書を送付しているものの、利用者家族等アンケートの結果から、家族から十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には面会時に簡単に伝えたり、家族会時を活用して報告をしたりするなど、家族への伝達方法を工夫することを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。今は、新型コロナウイルス感染症拡大で自由に参加してもらえないので、手紙や写真で報告をしている。		◎	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。		◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善して行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	新型コロナ感染症拡大の為、運営推進会議や家族会の開催が難しいので、書面で報告をしたり、社内報や手紙を送付している。		x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。今は、新型コロナ感染症拡大で集まる事が出来ないため、書面で報告をさせてもらっている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	○	/	現在のコロナ禍において、地域と交流する機会は激減したものの、法人・事業所としてこれまでに築いてきた地域との関係や絆は、地域住民等に理解されている。コロナ禍以前は、毎月事業所で認知症カフェを開催し、地域住民や関係者の参加協力を得ることができていた。花見や運動会などの地域行事に利用者と一緒に参加したり、保育園児との交流やボランティアの受け入れなどに協力することもできていた。コロナ禍においても、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう工夫しながら働きかけを継続していくとともに、コロナ禍の収束後には、早期に地域との交流が再開できることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。今は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、書面での報告になっている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。今は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、書面で対応している。	/	○	○	コロナ禍以前の運営推進会議には、約8名の利用者が参加するほか、多数の家族や近隣住民、民生委員、警察署、消防署、市担当者などの多くの参加を得て、開催することができていた。現在のコロナ禍において、会議は文書開催となっているが、事前に会議の参加メンバーに、利用者の様子やサービスの実際、評価への取り組み状況のほか、ミニ介護講座等も含めた資料を送付し、意見や要望を聞くことができていた。参加者から出された意見は、日々のサービスに活かすとともに、次回の会議等で結果を報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、毎月社内研修を実施し、職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得をサポートする体制ができている。事業所では、年1回ストレスチェックを実施し、結果によってはカウンセリングを受けられる体制を整え、職員のストレス軽減に努めている。また、代表者は管理者や職員と話す機会も多く、勤務状況などを把握し、相談等にも応じている。さらに、事業所では、職員の事情による時短勤務や希望休の取得にも対応するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	職員は社内研修等で虐待や不適切なケアを学び、注意を払った対応に努めている。日々の業務の中で、不適切な対応が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、何かあれば管理者に報告している。また、身体的な異常が見られた場合には事故報告書を作成し、様々な機会を設けて検討をするほか、事業所全体で情報を共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討し、業務改善報告書を書いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。	/	/	○	日常的に、職員は利用者から意見や要望を聞いている。自ら伝えることのできない利用者には、表情やしぐさからくみ取るなどの配慮をしている。家族からは、毎月の電話連絡時やケアプランの説明時に担当職員等が意見を聞くほか、運営推進会議のアンケートなどを活用して、意見を出してもらえるよう努めている。また、管理者は朝の申し送りや職員会議等を活用して職員から意見を聞くほか、日々の業務の中でも意見を聞く機会があり、利用者本位のサービスにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。	/	/	◎	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果や目標達成計画、取組み状況は、運営推進会議の中で報告しているものの、会議に参加していない家族にまでは伝えることができていない。今後は、サービスの評価結果や取組み状況をまとめて、全ての家族に報告したり、コロナ禍の収束後には、家族に呼びかけて取組み状況の確認などのモニターしてもらったりするなど、さらなる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺ったり、1階と2階でモニターをするようにしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の為、制限があり、十分にできていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。				事業所では、年2回消防署との合同訓練を実施し、指導を受けている。また、法人として、「避難訓練・年間スケジュール表」を作成し、毎月1回昼夜や様々な災害を想定した避難訓練等を実施している。訓練では実際に、法人内の他の事業所へ避難するなどの合同訓練も実施し、協力支援体制を整備している。さらに、運営推進会議等を活用して、関係者と防災等の話し合いをすることができている。管理者等は、今後災害時における地域との連携・協力体制をより充実させていくことを考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的の連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。				コロナ禍以前は、毎月事業所を活用して認知症カフェを開催し、相談支援の場として活用することができていた。事業所は地域での認知度が高く、地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として、様々な相談を受けるなどの対応をしている。また、ボランティアや実習生、外国人の技能実習生などを受け入れにも協力をしている。さらに、市行政と連携を取り、代表者が介護教室の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信をすることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。		◎	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、運営推進会議に参加してもらっている。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。今は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、書面での対応になっている。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 5 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 36名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 4ユニット
記入者(管理者) 氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテのAP欄に、SO欄の事実に対して、思ったこと、考えたことを記入し、ケアプランにつなげていく事に取り組んできたが、十分にできていない。アセスメントシートには、変化を赤ペンでの記入はできている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は開設して21年目を迎え、現在の場所に移転した建物は明るく、清潔感がある。建物内部はバリアフリー構造で、利用者や来訪者はユニット間の自由な出入りもできるとともに、随所に季節の小花が活けられ、開放的で心和む空間となっている。コロナ禍以前には、併設のデイサービスの利用者との交流も行われていた。現在のコロナ禍においても、事業所には面会や外出などの制限が設けられているものの、人混みを避けて、時期をずらしながらドライブがてらに花見や初詣に出かけたり、事業所内で夏祭りを開催する工夫をしたりするなど、利用者が気分転換をしながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。また、法人内において、年間計画を立てて毎月実施する社内研修も充実しており、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持に向けたケアを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、毎月認知症カフェを開催し、地域への啓発活動や情報発信をなど積極的に進めたりするなど、地域の総合相談窓口としても信頼されている。</p>
---------------------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気にかけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。</p> <p>家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。</p> <p>家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。</p> <p>本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。</p> <p>カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。</p>	○	○	○	アセスメントシートを活用して、利用者の昔の生活や今の生活、今できることなどを、担当職員等が利用者や家族から聞き取り、整理して記録に残している。また、日々のかかわりの中で、職員は利用者や家族、友人などから、新たな情報を得ることもあり、赤字で追記して職員間で共有している。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していただ方には、情報を提供してもらっている。</p> <p>カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。</p> <p>日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。</p> <p>カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。</p> <p>カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。</p>	○	○	○	入居時に、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしなどを聞き取るほか、これまでかかわってきた介護支援専門員や病院の相談員などの関係者から、情報を収集することもある。また、聞き取った内容や得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートに整理するとともに、新たに得られた情報は赤字で追記して、職員間で共有している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送りに伝えている。</p> <p>利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。</p> <p>気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。</p>	○	○	○	事業所では、担当職員がアセスメントシートを作成している。日々のかかわりの中で、職員が利用者や家族から新たに得た情報を追記し、朝夕の申し送り等を活用して情報共有するとともに、利用者本人の視点に立ち、より良いサービス提供ができるよう検討している。

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気付きや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族の意向のほか、職員が得た情報、主治医からの診療報告書や計画書をもとに職員間で話し合うなど、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。また、担当者会議の中で参加者から意見をもらい、作成した介護計画は家族に説明し、了承を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	◎ 個別ファイルの介護記録用紙の並びに、アセスメントシートと介護計画を両面コピーをして綴じており、職員は介護計画を確認しながらサービスの実施記録等が記載できるよう工夫されている。また、申し送り時等に、利用者の状況を職員間で共有しながら、日々の支援につなげている。利用者の日々の暮らしの様子は、発した言葉や行動、エピソードなどを詳しく記録することができている。さらに、職員の気づきやアイデアは、申し送りノートやアセスメントシートへ追記することができている。個別の介護記録のAP欄をさらに有効活用できるよう、今後も継続した取組みを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP欄も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	アセスメントシートやフェイスシートに記入したり、カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	○ 介護計画は6か月に1回を基本として、見直しをしている。入居直後や退院後などには、利用者の様子を観察等しながら、3か月に1回見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月モニタリングを行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状況に変化が見られた場合には、必要に応じて担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	◎ 事業所では月1回職員会議を、全ての職員の参加を原則のもとで開催している。会議の中では、計画的な研修や勉強会を実施している。毎朝の申し送りは、1階と2階に分かれて各ユニット合同で実施するとともに、サービス担当者会議を開催するなど、利用者の情報共有に努めている。また、緊急案件がある場合には、その都度職員間で話し合う機会を設けている。さらに、会議に参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、ほか、管理者が直接説明している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作り心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用して行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してもらったり、大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインをもらっている。又、申し送り時に伝えている。	/	/	/	◎ 申し送り等を活用して、情報伝達をしている。また、申し送りノートや議事録を回覧し、確認後に職員はサインをしているほか、重要事項は管理者が直接説明し、確実な情報伝達につなげている。さらに、病院受診の情報はケアプランファイルに綴じて回覧するほか、医師の指示は介護記録のAP欄に赤字で囲み、分かりやすくなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。				飲み物や衣服など、職員はその日の気分により、利用者自身が選べるよう声をかけている。職員は生活のあらゆる場面で利用者の意向を考えたかかわりを大切にしており、家族のことを話題に出したり、親しみのある呼びかけをしたりするなど、利用者一人ひとりに合わせたかかわりを通して、生き活きた言動や表情を引き出すことができている。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。			○			
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。						
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。						
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉(げや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。					○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。		◎	○	◎	利用者の人権や尊厳について、職員は社内研修等で学ぶ機会がある。職員はプライバシーを大切にしたい声かけや態度を常に意識し、基本的に丁寧な言葉づかいで、利用者との目線を合わせて話しかけることを心がけており、訪問調査日には穏やかに利用者へ声をかける職員の様子を確認することができた。また、法人・事業所として、「喋れなくても耳は聞こえる」ということを意識しており、職員は介護の誘導時などもさりげない声かけで、利用者が安心できるよう対応している。さらに、居室への出入りの際には、職員は必ずノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、利用者へ声をかけてから出入りすることができている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。				◎		
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事無ないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。						
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っはならないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。						○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けを求めたり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。					職員は、利用者同士の関係性を把握できており、仲の良さを考慮した配席にしている。時には、気分転換で席替えを行い、利用者一人ひとりの様子を見ながら、快適に過ごせるよう努めている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。				○		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。						

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所ドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。今年は、新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、出来るだけ、希望に添えるように努力をしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮しているが、新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、面会を制限して、状況を確認しながら、玄関先や窓越しからの面会をしてもらっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせるように努めている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、ベランダに出てもらって、気分転換をしてもらっている。今年は、2階のベランダで種からスイカの種をまいてみんなで一緒に育ててもらっている。	○	◎	◎	現在のコロナ禍において、以前のようなデイサービスの利用者や各フロア間の利用者同士の交流は避けているものの、同フロアのユニット間は自由に入出し、交流することができている。事業所では人混みを避けて、時期をずらしてドライブがてらに花見や初詣に出かけるなど、感染症対策をしながら、利用者が気分転換できるよう努めている。また、日常的に1階フロアの利用者は庭にある畑に出かけたり、2階フロアの利用者はベランダでスイカを栽培したりするなど、外気に触れることもできる活動を支援している。さらに、重度の利用者も同様に、外の空気を吸えるよう支援している。外出できる機会は減っているものの、事業所内で夏祭りを開催する工夫をするなど、利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、中止している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、ベランダに出て外の空気を吸ってもらっている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援している。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、状況を確認しながら、出来るだけ希望がかなえられるように努めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの能力をしっかりと把握できており、アセスメントシートに、「今できること」を書き込むことができている。利用者一人ひとりに洗濯物たたみや台拭き、おやつや果物の皮むきなど、できることに取り組んでもらい、職員はできるだけ手や口を出さずに見守りや待つ介護をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りしている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらおうようにしている。	/	◎	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	事業所では、フェイスシートやアセスメントシートに、できることを記録するなど、利用者一人ひとりの理解に努めている。洗濯物たたみや台拭きなどの家事を役割にするほか、他の利用者が食が進まない利用者へ声をかけをしたり、目が見えない利用者に声をかけながら介助をしたりするなど、利用者同士で助け合いながら、寄り添える良好なコミュニティができていく。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといてもらったりしている。				食事の際に、食べこぼしがある利用者には、職員は食事前のエプロンの代わりに食事専用のタオルを胸元に当てて、さりげなく口元を拭くなどの支援をしている。また、重度の利用者も本人の好きな色の服を選び、好みの髪型に整えることができています。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんや本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				法人の栄養士が献立を作成し、フロア毎の厨房で調理専属の職員が調理している。食材は業者に発注しているものの、コロナ禍以前は、おやつなどの食材を利用者と一緒に買い物に行くことができていた。調理の下ごしらえや後片づけなど、できることを利用者と一緒に行っている。献立づくりの際に、利用者の好みやアレルギー、リクエストなどを考慮し、菜園で採れた旬の野菜を使用するなど、季節が感じられる物を取り入れている。メニューは全体的に減塩で、利用者一人ひとりの食事形態に合わせて、切り方や柔らかさなどにも配慮している。食器類は、事業所で軽く使いやすい物を用意しているが、自分の物を使用している利用者もいる。また、職員は利用者と一緒に関わり、サポートをしながら食事を摂ることができている。リビングには一日のメニューが掲示されているとともに、重度の利用者を含め、ガラス越しの厨房の様子や漂う匂いで、食事の楽しさを感じさせてくれている。さらに、食事の栄養バランスは栄養士に任せているが、職員はしっかり水分が摂れるような汁物や1日2回の果物の摂取希望などを伝えることができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗ひ物は、出来る利用者さんが時々してくれている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでくれている。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手なもの、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、軽くて持ちやすいものを使用している。お箸やスプーンは、本人専用の物を使っている人もいる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。				職員は社内研修で学び、口腔ケアの重要性を理解している。月2回訪問歯科の来訪があり、口腔内のアセスメントや口腔ケアの指導を受けるなど、職員は利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握することができている。毎食後、職員が口腔ケアの声かけを行い、自分で歯磨き等ができる利用者には見守りながら口腔内の状況を確認するなど、日常的に口腔内の清潔保持を支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。また、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてもらっている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				事業所では、座位がとれない利用者以外は、トイレでの排泄を基本として支援をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、利用者の状態に合わせて、職員間で適切な排泄用品を検討し、家族に確認のうえ使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。		◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、1日2回のラジオ体操やホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっている。		◎	○	事業所として、入浴できる曜日や時間帯は特に決めておらず、利用者の希望を確認しながら入浴支援をしている。利用者は、夏場には週3回、冬場は週2~3回を基本として、入浴することができる。利用者の要望に応じて、毎日の入浴希望にも対応することができている。また、湯の温度や湯船に浸かる時間などは、利用者の体調を見ながら個別に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたりスタッフを交代して、気持ち良く入ってもらいように工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所では、利用者の安全性を考慮して、基本的に睡眠導入剤や安定剤などの服薬には頼らない方針としている。入居前に内服していた利用者も、入居した時点で服薬を中止してもらっている。日中の活動を増やしたり、紫外線を浴びたりするなど、利用者の生活リズムを整える工夫をしながら、夜間に安眠できるよう努めている。また、どうしても眠れない利用者や、夜間覚醒している利用者には、リビングに出て職員と一緒に過ごしてもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	◎	/	○	現在のコロナ禍において、事業所では面会や外出の制限を設けているが、自宅を忘れる不安を強く訴え、帰宅希望がある利用者には、条件付きで1時間だけ自宅に戻って過ごせるよう配慮した対応をしたこともある。また、利用者や家族の要望や、その時々々の状況に合わせて、職員が病院受診の送迎を支援するなど、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外には縁台が設置してあり、利用者や来訪者がくつろげるスペースとして活用されている。玄関周りは出入りしやすい広々とした空間があるとともに、玄関奥にはリビングに面した中庭があり、桜や紅葉などの植栽が季節を感じさせてくれる。また、リビングからは玄関前の来訪者の様子がよく見え、現在のコロナ禍の面会制限下において、家族はリビングでの利用者の様子を確認することができている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに飾るようになっている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	◎	◎	○	玄関を入ると広々とした空間に、観葉植物が置かれている。リビングにはテーブル席のほか、ソファが置かれ、訪問調査日には利用者が思い思いの場所でくつろぐ様子を見ることができた。リビングに面した台所は、カウンター上部がガラス戸になっており、利用者等は調理の様子がよく見えるようになっている。また、同じフロアのユニット間は、利用者等が自由に行き来することができる構造となっている。さらに、共用空間は掃除や換気も行き届き、廊下には邪魔となる物を置かず、広々とした移動しやすい動線が確保されている。加えて、随所にさりげなく小花を飾っており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的な掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	居室にはベッドや寝具、たんす、テレビなどが設置されている。馴染みの物を持ち込むこともでき、クッションや写真、手作りの置物など好みの物を飾り、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手すりや設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	事業所内はバリアフリー構造で、各所に手すりが設置されるなど、利用者にとって移動しやすい環境となっている。居室の扉には表札のほか、事業所名でもあるフルーツの写真や、自分の居室を分かりやすくするなど、利用者が安心安全に自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないよう心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見られるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニットが2階にあり、ユニットの入り口に階段がある為、安全を考慮して鍵をかけているが、ユニット間は鍵をかけず、自由に行き来してもらっている。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は社内研修等で学び、玄関やフロアの出入り口に鍵をかけることの弊害について、理解している。日中玄関は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。また、玄関にはセンサーチャイム機能が設置され、職員には利用者や来訪者の行き来が分かりやすくなっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着いた時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。玄関は、外部との出入り口には人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間もおり、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。朝の申し送り時に確認し、異状時には訪問看護師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルデに入れている。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」があり、入居時に利用者や家族に説明するとともに、延命の希望や事業所での看取り介護の希望を確認して書面に残している。利用者の状況の変化に伴い、主治医を含めた関係者で話し合う機会を設け、方針を共有して支援をしている。また、代表者は看護師資格を持っており、看取り時には訪問看護と協力しながら、自らも支援している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	◎		◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュと消毒剤、ペーパータオルを設置している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。				コロナ禍以前は、年1回家族会を実施するほか、運営推進会議に家族の参加を呼びかけたり、事業所の行事案内を送付して参加を募ったりするなど、参加協力を得ることができていた。現在のコロナ禍において、事業所には入室制限が設けられているため、家族が来訪し対面する機会は激減し、毎月利用者の生活の様子を職員が電話連絡をするのと同時に、家族から心配事や要望を聞き取り、対応をしている。また、2～3か月に1回は、ホームからのお便りなどを送付し、写真やコメントを添えて利用者の様子を伝えている。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議の報告書を送付しているものの、利用者家族等アンケートの結果から、家族から十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には面会時に簡単に伝えたり、家族会時を活用して報告をしたりするなど、家族への伝達方法を工夫することを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。今は、新型コロナウイルス拡大の為、書面や写真で報告している。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善して行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	新型コロナウイルス拡大の為、運営推進会議や家族会の開催が難しい為、書面で報告したり、社内報や手紙を送付している。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	○	/	現在のコロナ禍において、地域と交流する機会は激減したものの、法人・事業所としてこれまでに築いてきた地域との関係や絆は、地域住民等に理解されている。コロナ禍以前は、毎月事業所で認知症カフェを開催し、地域住民や関係者の参加協力を得ることができていた。花見や運動会などの地域行事に利用者と一緒に参加したり、保育園児との交流やボランティアの受け入れなどに協力することもできていた。コロナ禍においても、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう工夫しながら働きかけを継続していくとともに、コロナ禍の収束後には、早期に地域との交流が再開できることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。今は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、書面での報告になっている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。今は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、書面で対応している。	/	○	○	コロナ禍以前の運営推進会議には、約8名の利用者が参加するほか、多数の家族や近隣住民、民生委員、警察署、消防署、市担当者などの多くの参加を得て、開催することができていた。現在のコロナ禍において、会議は文書開催となっているが、事前に会議の参加メンバーに、利用者の様子やサービスの実際、評価への取り組み状況のほか、ミニ介護講座等も含めた資料を送付し、意見や要望を聞くことができていた。参加者から出された意見は、日々のサービスに活かすとともに、次回の会議等で結果を報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、毎月社内研修を実施し、職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得をサポートする体制ができている。事業所では、年1回ストレスチェックを実施し、結果によってはカウンセリングを受けられる体制を整え、職員のストレス軽減に努めている。また、代表者は管理者や職員と話す機会も多く、勤務状況などを把握し、相談等にも応じている。さらに、事業所では、職員の事情による時短勤務や希望休の取得にも対応するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	職員は社内研修等で虐待や不適切なケアを学び、注意を払った対応に努めている。日々の業務の中で、不適切な対応が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、何かあれば管理者に報告している。また、身体的な異常が見られた場合には事故報告書を作成し、様々な機会を設けて検討をするほか、事業所全体で情報を共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。			○	日常的に、職員は利用者から意見や要望を聞いている。自ら伝えることのできない利用者には、表情やしぐさからくみ取るなどの配慮をしている。家族からは、毎月の電話連絡時やケアプランの説明時に担当職員等が意見を聞くほか、運営推進会議のアンケートなどを活用して、意見を出してもらえるよう努めている。また、管理者は朝の申し送りや職員会議等を活用して職員から意見を聞くほか、日々の業務の中でも意見を聞く機会があり、利用者本位のサービスにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討している。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。			◎	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果や目標達成計画、取組み状況は、運営推進会議の中で報告しているものの、会議に参加していない家族にまでは伝えることができていない。今後は、サービスの評価結果や取組み状況をまとめて、全ての家族に報告したり、コロナ禍の収束後には、家族に呼びかけて取組み状況の確認などのモニターしてもらったりするなど、さらなる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺ったり、1階と2階でモニターをするようにしていたが、新型コロナ感染症拡大の為、制限があり、十分にできていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。				事業所では、年2回消防署との合同訓練を実施し、指導を受けている。また、法人として、「避難訓練・年間スケジュール表」を作成し、毎月1回昼夜や様々な災害を想定した避難訓練等を実施している。訓練では実際に、法人内の他の事業所へ避難するなどの合同訓練も実施し、協力支援体制を整備している。さらに、運営推進会議等を活用して、関係者と防災等の話し合いをすることができている。管理者等は、今後災害時における地域との連携・協力体制をより充実させていくことを考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的の連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。				コロナ禍以前は、毎月事業所を活用して認知症カフェを開催し、相談支援の場として活用することができていた。事業所は地域での認知度が高く、地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として、様々な相談を受けるなどの対応をしている。また、ボランティアや実習生、外国人の技能実習生などを受け入れにも協力をしている。さらに、市行政と連携を取り、代表者が介護教室の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信をすることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。		◎	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリターン研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月よりフィリピンからの実習生を受け入れている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。現在は、新型コロナ感染症拡大の為、書面に対応している。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 10 月 5 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 36名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 5ユニット
記入者(管理者) 氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和 3年 8月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>カルテのAP欄に、SO欄の事実に対して、思ったこと、考えたことを記入し、ケアプランにつなげていく事に取り組んできたが、十分にできていない。アセスメントシートには、変化を赤ペンでの記入はできている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は開設して21年目を迎え、現在の場所に移転した建物は明るく、清潔感がある。建物内部はバリアフリー構造で、利用者や来訪者はユニット間の自由な出入りもできるとともに、随所に季節の小花が活けられ、開放的で心和む空間となっている。コロナ禍以前には、併設のデイサービスの利用者との交流も行われていた。現在のコロナ禍においても、事業所には面会や外出などの制限が設けられているものの、人混みを避けて、時期をずらしながらドライブがてらに花見や初詣に出かけたり、事業所内で夏祭りを開催する工夫をしたりするなど、利用者が気分転換をしながら、楽しみのある生活が送れるよう支援している。また、法人内において、年間計画を立てて毎月実施する社内研修も充実しており、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持に向けたケアを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、毎月認知症カフェを開催し、地域への啓発活動や情報発信をなど積極的に進めたりするなど、地域の総合相談窓口としても信頼されている。</p>
---------------------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気にかけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。</p> <p>家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。</p> <p>家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。</p> <p>本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。</p> <p>カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。</p>	○	○	○	アセスメントシートを活用して、利用者の昔の生活や今の生活、今できることなどを、担当職員等が利用者や家族から聞き取り、整理して記録に残している。また、日々のかかわりの中で、職員は利用者や家族、友人などから、新たな情報を得ることもあり、赤字で追記して職員間で共有している。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していただ方には、情報を提供してもらっている。</p> <p>カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。</p> <p>日々の生活の中で気付いたり感じたことを申し送り時等を利用して話し合ったり、フェイスシートやアセスメントシートなどに記入して現状を把握するように努めている。</p> <p>カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。又、病状の変化についてはカルテに記載して、医師からの指示は、赤字で囲みわかりやすくしている。</p> <p>カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。</p>	○	○	○	入居時に、職員は利用者や家族からこれまでの暮らしなどを聞き取るほか、これまでかかわってきた介護支援専門員や病院の相談員などの関係者から、情報を収集することもある。また、聞き取った内容や得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートに整理するとともに、新たに得られた情報は赤字で追記して、職員間で共有している。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送りに伝えている。</p> <p>利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行い、朝の申し送り時等を利用して検討している。</p> <p>気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。</p>	○	○	○	事業所では、担当職員がアセスメントシートを作成している。日々のかかわりの中で、職員が利用者や家族から新たに得た情報を追記し、朝夕の申し送り等を活用して情報共有するとともに、利用者本人の視点に立ち、より良いサービス提供ができるよう検討している。

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気付きや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	利用者や家族の意向のほか、職員が得た情報、主治医からの診療報告書や計画書をもとに職員間で話し合うなど、計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。また、担当者会議の中で参加者から意見をもらい、作成した介護計画は家族に説明し、了承を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをしようとしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気や心掛けており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	◎ 個別ファイルの介護記録用紙の並びに、アセスメントシートと介護計画を両面コピーをして綴じており、職員は介護計画を確認しながらサービスの実施記録等が記載できるよう工夫されている。また、申し送り時等に、利用者の状況を職員間で共有しながら、日々の支援につなげている。利用者の日々の暮らしの様子は、発した言葉や行動、エピソードなどを詳しく記録することができている。さらに、職員の気づきやアイデアは、申し送りノートやアセスメントシートへ追記することができている。個別の介護記録のAP欄をさらに有効活用できるよう、今後も継続した取組みを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	カルテや入居者情報に記入している。又、受診状況や思ったことなどはAP欄も利用している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	アセスメントシートやフェイスシートに記入したり、カルテのAP欄に記入するように努めている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。	/	/	/	○ 介護計画は6か月に1回を基本として、見直しをしている。入居直後や退院後などには、利用者の様子を観察等しながら、3か月に1回見直しをしている。また、新たな要望や変化が見られない場合にも、毎月モニタリングを行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状況に変化が見られた場合には、必要に応じて担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。	/	/	/	◎ 事業所では月1回職員会議を、全ての職員の参加を原則のもとで開催している。会議の中では、計画的な研修や勉強会を実施している。毎朝の申し送りは、1階と2階に分かれて各ユニット合同で実施するとともに、サービス担当者会議を開催するなど、利用者の情報共有に努めている。また、緊急案件がある場合には、その都度職員間で話し合う機会を設けている。さらに、会議に参加できなかった職員には議事録を確認してもらい、ほか、管理者が直接説明している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作りや心掛けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用してしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を確認してもらったり、大切なことは、申し送り時に入居者情報に記載して、全員が確認できるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	回覧を確認してもらって、サインしてもらっている。又、申し送り時に伝えている。	/	/	/	◎ 申し送り等を活用して、情報伝達をしている。また、申し送りノートや議事録を回覧し、確認後に職員はサインをしているほか、重要事項は管理者が直接説明し、確実な情報伝達につなげている。さらに、病院受診の情報はケアプランファイルに綴じて回覧するほか、医師の指示は介護記録のAP欄に赤字で囲み、分かりやすくなっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。	/	/	/	飲み物や衣服など、職員はその日の気分により、利用者自身が選べるよう声をかけている。職員は生活のあらゆる場面で利用者の意向を考えたかかわりを大切にしており、家族のことを話題に出したり、親しみのある呼びかけをしたりするなど、利用者一人ひとりに合わせたかかわりを通して、生き活きた言動や表情を引き出すことができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	質問はわかりやすく、相手が言えるような声掛けをするように心掛けている。会話の中でも、思いや希望が伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりにしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。	◎	○	◎	利用者の人権や尊厳について、職員は社内研修等で学ぶ機会がある。職員はプライバシーを大切にしたい声かけや態度を常に意識し、基本的に丁寧な言葉づかいで、利用者を目線に合わせて話しかけることを心がけており、訪問調査日には穏やかに利用者に声をかける職員の様子を確認することができた。また、法人・事業所として、「喋れなくても耳は聞こえる」ということを意識しており、職員は介護の誘導時などもさりげない声かけで、利用者が安心できるよう対応している。さらに、居室への出入りの際には、職員は必ずノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、利用者に声かけてから出入りすることができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けており、職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事無ないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時も外でそっと見守りしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っはならないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けを求めたり教えをもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事ははしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性を把握できており、仲の良さを考慮した配席にしている。時には、気分転換で席替えを行い、利用者一人ひとりの様子を見ながら、快適に過ごせるよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所ドライブなどで出かける事はあるが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。今年は新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、出来るだけ希望に添えるように努力をしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来られた時は、居室やホールでゆっくりと我が家のように過ごせるように配慮している。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限をして、状況を確認しながら、玄関先や窓越しの面会をしてもらっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせるように努めている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、花を見たりしている。今年は、2階のベランダで、種からスイカを育て、みんなどと一緒に育てている。	○	◎	◎	現在のコロナ禍において、以前のようなデイサービスの利用者や各フロア間の利用者同士の交流は避けているものの、同フロアのユニット間は自由に入出し、交流することができている。事業所では人混みを避けて、時期をずらしてドライブがてらに花見や初詣に出かけるなど、感染症対策をしながら、利用者が気分転換できるよう努めている。また、日常的に1階フロアの利用者は庭にある畑に出かけたり、2階フロアの利用者はベランダでスイカを栽培したりするなど、外気に触れることもできる活動を支援している。さらに、重度の利用者も同様に、外の空気を吸えるよう支援している。外出できる機会は減っているものの、事業所内で夏祭りを開催する工夫をするなど、利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、中止している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、ベランダに出て、外の空気を吸ってもらい、気分転換をしてもらっている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者さんの希望で買い物に出掛けたり、家族の方の協力を得て自宅へ帰ったりできるように支援している。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、状況を確認しながら、出来るだけ希望がかなえられるように努めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの能力をしっかりと把握できており、アセスメントシートに、「今できること」を書き込むことができている。利用者一人ひとりに洗濯物たたみや台拭き、おやつや果物の皮むきなど、できることに取り組んでもらい、職員はできるだけ手や口を出さずに見守りや待つ介護をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りを行っている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらおうようにしている。	/	◎	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	事業所では、フェイスシートやアセスメントシートに、できることを記録するなど、利用者一人ひとりの理解に努めている。洗濯物たたみや台拭きなどの家事を役割にするほか、他の利用者が食が進まない利用者へ声かけをしたり、目が見えない利用者に声をかけながら介助をしたりするなど、利用者同士で助け合いながら、寄り添える良好なコミュニティができていく。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の観光スポットを見に季節ごとのお花を見に行ったり、お祭り、初詣などに行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといてもらったりしている。				食事の際に、食べこぼしがある利用者には、職員は食事前のエプロンの代わりに食事専用のタオルを胸元に当てて、さりげなく口元を拭くなどの支援をしている。また、重度の利用者も本人の好きな色の服を選び、好みの髪型に整えることができています。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんや本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにしてもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				法人の栄養士が献立を作成し、フロア毎の厨房で調理専属の職員が調理している。食材は業者に発注しているものの、コロナ禍以前は、おやつなどの食材を利用者と一緒に買い物に行くことができていた。調理の下ごしらえや後片づけなど、できることを利用者と一緒に行っている。献立づくりの際に、利用者の好みやアレルギー、リクエストなどを考慮し、菜園で採れた旬の野菜を使用するなど、季節が感じられる物を取り入れている。メニューは全体的に減塩で、利用者一人ひとりの食事形態に合わせて、切り方や柔らかさなどにも配慮している。食器類は、事業所で軽く使いやすい物を用意しているが、自分の物を使用している利用者もいる。また、職員は利用者と一緒に関わり、サポートをしながら食事を摂ることができている。リビングには一日のメニューが掲示されているとともに、重度の利用者を含め、ガラス越しの厨房の様子や漂う匂いで、食事の楽しさを感じさせてくれている。さらに、食事の栄養バランスは栄養士に任せているが、職員はしっかり水分が摂れるような汁物や1日2回の果物の摂取希望などを伝えることができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗ひ物は、出来る利用者さんが時々してくれている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでくれている。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手なもの、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩りや添え物に工夫して提供してくれている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、軽くて持ちやすい物を使用している。コップは本人専用のを使っている人もいる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてくれている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。				職員は社内研修で学び、口腔ケアの重要性を理解している。月2回訪問歯科の来訪があり、口腔内のアセスメントや口腔ケアの指導を受けるなど、職員は利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握することができている。毎食後、職員が口腔ケアの声かけを行い、自分で歯磨き等ができる利用者には見守りながら口腔内の状況を確認するなど、日常的に口腔内の清潔保持を支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてもらい、指導もしてもらっている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常のある時は、訪問歯科さんに相談して、治療してもらっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				事業所では、座位がとれない利用者以外は、トイレでの排泄を基本として支援をしている。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、利用者の状態に合わせて、職員間で適切な排泄用品を検討し、家族に確認のうえ使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。		◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、1日2回のラジオ体操やホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっている。		◎	○	事業所として、入浴できる曜日や時間帯は特に決めておらず、利用者の希望を確認しながら入浴支援をしている。利用者は、夏場には週3回、冬場は週2~3回を基本として、入浴することができる。利用者の要望に応じて、毎日の入浴希望にも対応することができている。また、湯の温度や湯船に浸かる時間などは、利用者の体調を見ながら個別に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強い無いうように努めている。時間帯を考えたりスタッフを交代して、気持ち良く入ってもらいように工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所では、利用者の安全性を考慮して、基本的に睡眠導入剤や安定剤などの服薬には頼らない方針としている。入居前に内服していた利用者も、入居した時点で服薬を中止してもらっている。日中の活動を増やしたり、紫外線を浴びたりするなど、利用者の生活リズムを整える工夫をしながら、夜間に安眠できるよう努めている。また、どうしても眠れない利用者や、夜間覚醒している利用者には、リビングに出て職員と一緒に過ごしてもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらうようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人の場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	◎	/	○	現在のコロナ禍において、事業所では面会や外出の制限を設けているが、自宅を忘れる不安を強く訴え、帰宅希望がある利用者には、条件付きで1時間だけ自宅に戻って過ごせるよう配慮した対応をしたこともある。また、利用者や家族の要望や、その時々々の状況に合わせて、職員が病院受診の送迎を支援するなど、柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(3)生活環境づくり											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	○	玄関外には縁台が設置してあり、利用者や来訪者がくつろげるスペースとして活用されている。玄関周りは出入りしやすい広々とした空間があるとともに、玄関奥にはリビングに面した中庭があり、桜や紅葉などの植栽が季節を感じさせてくれる。また、リビングからは玄関前の来訪者の様子がよく見え、現在のコロナ禍の面会制限下において、家族はリビングでの利用者の様子を確認することができている。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに飾るようになっている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。他のユニットへも自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	◎	◎	○	玄関を入ると広々とした空間に、観葉植物が置かれている。リビングにはテーブル席のほか、ソファが置かれ、訪問調査日には利用者が思い思いの場所でくつろぐ様子を見ることができた。リビングに面した台所は、カウンター上部がガラス戸になっており、利用者等は調理の様子がよく見えるようになっている。また、同じフロアのユニット間は、利用者等が自由に行き来することができる構造となっている。さらに、共用空間は掃除や換気も行き届き、廊下には邪魔となる物を置かず、広々とした移動しやすい動線が確保されている。加えて、随所にさりげなく小花を飾っており、利用者や来訪者は季節を感じることができる。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的な掃除をし、臭いにも気を付けている。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。	○					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	他のユニットへも自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室は、ホールから直接見えないう位置にあり、明り取りの窓は上方にあり、すりガラスにしている。	○					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	居室にはベッドや寝具、たんす、テレビなどが設置されている。馴染みの物を持ち込むこともでき、クッションや写真、手作りの置物など好みの物を飾り、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手すりを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。				○	事業所内はバリアフリー構造で、各所に手すりが設置されるなど、利用者にとって移動しやすい環境となっている。居室の扉には表札のほか、事業所名でもあるフルーツの写真を貼り、自分の居室を分かりやすくするなど、利用者が安心安全に自立した生活が送れるよう配慮している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	常に環境整備を行い、動線には物を置かないよう心掛けている。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見られるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	○					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	ユニットが2階にあり、ユニットの入り口に階段がある為、安全を考慮して鍵をかけているが、ユニットの間は鍵をかけず、自由に行き来してもらっている。居室は鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は社内研修等で学び、玄関やフロアの出入り口に鍵をかけることの弊害について、理解している。日中玄関は施錠しておらず、自由に出入りできるようになっている。また、玄関にはセンサーチャイム機能が設置され、職員には利用者や来訪者の行き来が分かりやすくなっている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着いた時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ユニット間は、施錠をしないで自由に行き来できるように配慮している。玄関は、外部との出入り口には、人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	○					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による往診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	普段よりケースワーカーとのかかわりを持ち、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間もおり、相談もしている。情報や気付きは常に看護師に報告しており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての確認書をカルテに入れている。	/	/	/	法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」があり、入居時に利用者や家族に説明するとともに、延命の希望や事業所での看取り介護の希望を確認して書面に残している。利用者の状況の変化に伴い、主治医を含めた関係者で話し合う機会を設け、方針を共有して支援をしている。また、代表者は看護師資格を持っており、看取り時には訪問看護と協力しながら、自らも支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症発生状況や情報はインターネットなどを通じて早く取り入れ、早めに対応を取るよう努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウオッシュと消毒剤、ペーパータオルを設置している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆつりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらるように努めている。				コロナ禍以前は、年1回家族会を実施するほか、運営推進会議に家族の参加を呼びかけたり、事業所の行事案内を送付して参加を募ったりするなど、参加協力を得ることができていた。現在のコロナ禍において、事業所には入室制限が設けられているため、家族が来訪し対面する機会は激減し、毎月利用者の生活の様子を職員が電話連絡をするのと同時に、家族から心配事や要望を聞き取り、対応をしている。また、2～3か月に1回は、ホームからのお便りなどを送付し、写真やコメントを添えて利用者の様子を伝えている。さらに、事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議の報告書を送付しているものの、利用者家族等アンケートの結果から、家族から十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には面会時に簡単に伝えたり、家族会時を活用して報告をしたりするなど、家族への伝達方法を工夫することを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。小まめに生活状況や体調の変化などを伝えている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。現在は、新型コロナウイルス拡大の為、制限がある為、電話や書面、写真での対応になっている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応をしている。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善して行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	現在、新型コロナウイルス拡大の為、運営推進会議や家族会の開催が難しかったため、書面で報告したり、社内報や手紙を送付している。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会などでは、家族同士でお話をする機会を持ってもらっている。現在は、新型コロナウイルス拡大の為、運営推進会議や家族会が開催できないので、書面で報告したり、社内報を送付している。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、文書で示し、家族会の開催時等に説明し同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	○	/	現在のコロナ禍において、地域と交流する機会は激減したものの、法人・事業所としてこれまでに築いてきた地域との関係や絆は、地域住民等に理解されている。コロナ禍以前は、毎月事業所で認知症カフェを開催し、地域住民や関係者の参加協力を得ることができていた。花見や運動会などの地域行事に利用者と一緒に参加したり、保育園児との交流やボランティアの受け入れなどに協力することもできていた。コロナ禍においても、利用者が地域とつながりながら暮らしていけるよう工夫しながら働きかけを継続していくとともに、コロナ禍の収束後には、早期に地域との交流が再開できることを期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加してもらっている。現在は、新型コロナ感染症拡大で、制限がある為、書面での対応になっている。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加してもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしている。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域のイベントに参加したり、ホーム内でも他のユニットや、デイサービスに遊びに行ったりしている。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加してもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	/	○	/	コロナ禍以前の運営推進会議には、約8名の利用者が参加するほか、多数の家族や近隣住民、民生委員、警察署、消防署、市担当者などの多くの参加を得て、開催することができていた。現在のコロナ禍において、会議は文書開催となっているが、事前に会議の参加メンバーに、利用者の様子やサービスの実際、評価への取り組み状況のほか、ミニ介護講座等も含めた資料を送付し、意見や要望を聞くことができていた。参加者から出された意見は、日々のサービスに活かすとともに、次回の会議等で結果を報告している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。	/	/	○		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	/	◎		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	参加者には、議事録を郵送している。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じての研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、毎月社内研修を実施し、職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得をサポートする体制ができている。事業所では、年1回ストレスチェックを実施し、結果によってはカウンセリングを受けられる体制を整え、職員のストレス軽減に努めている。また、代表者は管理者や職員と話す機会も多く、勤務状況などを把握し、相談等にも応じている。さらに、事業所では、職員の事情による時短勤務や希望休の取得にも対応するなど、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じての研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	/	職員は社内研修等で虐待や不適切なケアを学び、注意を払った対応に努めている。日々の業務の中で、不適切な対応が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、何かあれば管理者に報告している。また、身体的な異常が見られた場合には事故報告書を作成し、様々な機会を設けて検討をするほか、事業所全体で情報を共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。			○	日常的に、職員は利用者から意見や要望を聞いている。自ら伝えることのできない利用者には、表情やしぐさからくみ取るなどの配慮をしている。家族からは、毎月の電話連絡時やケアプランの説明時に担当職員等が意見を聞くほか、運営推進会議のアンケートなどを活用して、意見を出してもらえよう努めている。また、管理者は朝の申し送りや職員会議等を活用して職員から意見を聞くほか、日々の業務の中でも意見を聞く機会があり、利用者本位のサービスにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の相談窓口を設けており、運営推進会議や個別にも伝えやすいように努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんや職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討している。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。			◎	

愛媛県グループホームフルーツの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果や目標達成計画、取組み状況は、運営推進会議の中で報告しているものの、会議に参加していない家族にまでは伝えることができていない。今後は、サービスの評価結果や取組み状況をまとめて、全ての家族に報告したり、コロナ禍の収束後には、家族に呼びかけて取組み状況の確認などのモニターしてもらったりするなど、さらなる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺ったり、1階と2階でモニターをするようにしていたが、新型コロナ感染症拡大の為、制限があり、十分にできていない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	事業所では、年2回消防署との合同訓練を実施し、指導を受けている。また、法人として、「避難訓練・年間スケジュール表」を作成し、毎月1回昼夜や様々な災害を想定した避難訓練等を実施している。訓練では実際に、法人内の他の事業所へ避難するなどの合同訓練も実施し、協力支援体制を整備している。さらに、運営推進会議等を活用して、関係者と防災等の話し合いをすることができている。管理者等は、今後災害時における地域との連携・協力体制をより充実させていくことを考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的の連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	○	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をしてもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	コロナ禍以前は、毎月事業所を活用して認知症カフェを開催し、相談支援の場として活用することができていた。事業所は地域での認知度が高く、地域の介護や福祉に関する総合相談窓口として、様々な相談を受けるなどの対応をしている。また、ボランティアや実習生、外国人の技能実習生などを受け入れにも協力をしている。さらに、市行政と連携を取り、代表者が介護教室の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信をすることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	◎	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月からフィリピンからの実習生を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。現在は、新型コロナ感染症拡大の為、書面に対応している。	/	/	◎	